

改組新第7回 日展授賞式



祝辞

文化庁長官 宮田 亮平 様

おはようございます。本日は誠にありがとうございます。内閣総理大臣賞並びに文部科学大臣賞をはじめ各賞を受賞されました皆様に、本当に心よりお慶び申し上げます。

この栄えある受賞は、皆様の日ごろの研鑽の積み重ねと、芸術を真摯に追求する情熱の結晶であり、深く敬意を表したいと思います。

文部科学大臣賞並びに内閣総理大臣賞を受賞されました河村様、桑原様、楠元様、藤田様、そして永守様、それから各賞を受賞された皆様に、今後ますますのご活躍をお願いしたいと存じます。

先ほど理事長のお話にもございましたが、唯一と言っても過言ではありません。こうやってコロナ禍の中、日展を盛大に、こうやって授賞式が滞りなく進められているのは、日展が日本の文化を創ってきたという証であると思っております。

そういう意味で、今回の賞を受賞された皆様には、大きな責任があると私は感じております。どうぞ、コロナ禍が終わり、東京オリンピック・パラリンピックも終わった後にこそ、新たなチャンスがあります。未だ世界中に暗い影を落とす感染症により文化芸術の世界も深刻な影響を受けおります。しかし、こうして受賞された多彩な作品の数々を拝見すると、日展が世界に向かって発信していかれるその土台のきっかけが今日ここにあります。

皆さんは、そのスタートを切ったという自覚をもっていただければ幸いかと思います。

ピカソは、こんなことを言っています。彼の時代は激動の時代でございます。「芸術は悲しみと苦しみから生まれる。しかし、私は決して立ち止まりはしない」。ちょうど同じような中に、いま世界中があるのではないのでしょうか。

ぜひとも皆様方のご活躍を期待したいと思います。そして、この展覧会、公益社団法人日展のますますのご発展を念じ、文化庁としても大いに応援をさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。